

検証意見書



2026年7月30日
意見書番号：SGS26/043

株式会社フジシールインターナショナル
大阪市淀川区宮原4丁目1番9号
取締役 代表執行役社長 CEO
岡崎 成子 様

検証目的

SGSジャパン株式会社（以下、当社）は、株式会社フジシールインターナショナル（以下、組織）からの依頼に基づき、組織が作成した検証対象（以下、GHG等に関するステートメント）について、検証基準（ISO14064-3:2019及び当社の検証手順）に基づいて検証を実施した。本検証業務の目的は、組織の対象範囲にかかるGHG等に関するステートメントについて、判断基準に照らし適正に算定・報告されているかを独立の立場から確認し、第三者としての意見を表明することである。GHG等に関するステートメントの作成及び公正な報告の責任は組織にある。

検証範囲

検証対象は、Scope1及びScope2、エネルギー消費量、再生可能エネルギー消費量、Scope3（カテゴリー1及びカテゴリー6）である。

対象期間は2025年4月1日～2026年3月31日（海外拠点は2025年1月1日～12月31日）である。

詳細な検証対象範囲は別紙参照。

検証手順

本検証業務は、検証基準に則り、限定的保証水準にて次の手続きを実施した。

- 算定体制の検証：検証対象の測定・集計・算定・報告方法に関する質問、及び関連資料の閲覧
- 定量的データの検証：名張工場の現地検証及び証憑突合、本社でのFuji Seal Packaging de Mexico, S.A. de C.V.の書面検証、その他検証対象範囲に対する分析の手续及び質問

判断基準は、温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル（Ver. 6.1）、サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン（Ver. 2.8）、サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver. 3.6）、IDEA v3.5及び組織が定めた手順を用いた。

結論

前述の要領に基づいて実施した検証手続の範囲において、組織のGHG等に関するステートメントが、判断基準に従って、算定及び報告されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。
なお、当社は、組織から独立しており、公平性を損なう可能性や利害の抵触はない。

SGSジャパン株式会社

神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町134
横浜ビジネスパーク ノーススクエア I
ビジネス アシュアランス
認証・認定統括責任者

竹内 裕二

別紙

2026 年 7 月 30 日
意見書番号：SGS26/043

検証対象範囲の詳細

検証対象		検証範囲	GHG等に関するステートメント
1	Scope1, 2 (エネルギー起源) ※敷地外の移動体の燃料は除く	組織の 27 拠点 (国内 13 拠点、 海外 14 拠点)	Scope1 : 50,557 t- CO ₂ Scope2 : マーケットベース : 65,110 t- CO ₂ ロケーションベース : 110,106 t- CO ₂
2	Scope1 (非エネルギー起源 : VOC燃焼に伴う CO ₂ 、HFC漏洩 に伴う GHG)	組織の 16 拠点 (国内 5 拠点、 海外 11 拠点)	32,230 t- CO _{2e}
3	エネルギー消費量	組織の 27 拠点 (国内 13 拠点、 海外 14 拠点)	406,909 MWh
4	再生可能エネルギー消費量 ※エネルギー属性証明書による 調達分を含む	組織の 14 拠点 (国内 6 拠点、 海外 8 拠点)	43,119 MWh
5	Scope 3 (カテゴリー1)	組織及び連結会社	688,650 t- CO ₂
6	Scope 3 (カテゴリー6)	組織及び連結会社	792 t- CO ₂